

▼手形をベタタン！成長を記録（子育て学習センターみどり）



人の脳は八歳から十歳頃には大まかな発達を完了します。脳の育ち盛りは短いので、

**食育で心豊かに！
脳が栄養失調状態に
なっていないませんか？**

子育て広場

【開設時間】
午前9時～
午後1時

■南あわじ市子育て学習センター

みどり (☎44-3008) 開設日：月・火・水・金
せいだん (☎37-3028) 開設日：月・火・木・金
みはら (☎42-7703) 開設日：火・水・木・金
なんだん (☎50-3048) 開設日：月・火・水・金

子ども時代にこそ、脳に必要な栄養素を十分に補給する必要があります。

心や体の不調を訴える子どもの半数は、朝食を摂っていません。彼らの食生活の特徴は、糖質や脂質の摂りすぎと、ビタミンやミネラル、食物繊維の不足です。食事を抜く、特に朝食を摂らないと、脳のエネルギーとなるブドウ糖が不足します。さらにビタミン、ミネラルが不足するので、脳が栄養失調状態になります。脳をいきいきと活動させるための栄養素が供給されないのです。

脳は摂取したエネルギーを貯蔵できません。三食きちんと食べ、ブドウ糖を途切れなく送り込まないと働きが悪くなります。

食事は「バランスよく、よく噛んで、ゆつくりと楽しく！」を心がけて家族で食事の時間を楽しみましょう。

（子育て学習センターみどり 林薫）



●平成17年7月19日までの受付分(敬称略)
※この欄への掲載を希望しない人は、届け出のときに窓口へお申し出ください。

結婚 いつまでもお幸せに

夫氏名(地区)	妻氏名(地区)	届出日
木本 旭(福良)	片山りつ子(市)	6月21日
富本 岳雄(八木)	土井本奈央(福良)	7月7日
真野 貴史(八木)	石橋かおり(八木)	7月7日
川淵 博昭(阿万)	入谷 祐子(神代)	7月7日
片山 正敏(倭文)	馬詰 早苗(榎列)	7月7日
阿部 守(阿万)	岸田 美織(徳島県)	7月8日



●人口 54,430人(前月比-36人)
(男) 26,272人(前月比-26人)
(女) 28,158人(前月比-10人)
●世帯数 18,000世帯(前月比-3世帯)
※平成17年7月1日現在

出生 はじめまして すこやかに

赤ちゃん	性別	保護者	地区	出生日
合田 昊世	男	友 則	市	6月9日
奥村 優吾	男	直 仁	灘	6月10日
池奥 大知	男	達 哉	八木	6月10日
吉田 莉菜	女	彰 文	倭文	6月10日
村上 大仁	男	大 輔	福良	6月11日
小林 仁汰	男	純	広田	6月13日
伊達 明海	女	淳 行	阿那賀	6月14日
仲野 翔太	男	宏 一	広田	6月15日
登日 日乃	女	卓 次	市	6月16日
富山 祥伍	男	洋 二	市	6月19日
山越 紫梨	女	祥 平	阿万	6月20日
三宅 梨乃	女	高 央	阿那賀	6月20日
森長 由愛	女	慶 太	松帆	6月20日
高丘 康介	男	幸 秀	広島県	6月21日
里深 叶恋	女	禎 榎	列	6月21日
酒井 翔世	男	己智雄	西宮市	6月22日
今井 美月	女	一 博	秋田県	6月22日
安田 瞬	男	剛	賀集	6月23日
久保 竜翔	男	竜 誠	広田	6月23日
坂東 希大	男	龍 也	賀集	6月25日
島田 聖大	男	将 之	神代	6月27日
島田 聖大	男	将 之	神代	6月27日
鎌田 蘭々	女	義 広	田	6月28日
森崎 央望	女	成 俊	福良	6月28日
浦邊 璃愛	女	泰 裕	福良	6月29日
下川 美咲	女	豊 津	井	6月30日
池上 莉央	女	誠 介	滋賀県	7月2日
原 健二	男	純 一	湊	7月3日
山上 夏生	男	佳 宏	広田	7月3日
柏木 麻衣	女	賢 治	倭文	7月3日
炬口 愛瑠	女	直 樹	広田	7月3日
北川 陸翔	男	秀 信	八木	7月13日
田中 里緒	女	田 中	集	7月16日



地域のおじさん・おばさん運動

「わたしの子ども」から「わたしたちの子どもたち」へ

青少年育成センター ☎37-3026

大切にしたい 子どもと大人の関係

中学生と話し合い、考えを聞く機会を持つことができ、なごやかな雰囲気の中でコミュニケーションや関係についての意見が多く出され、身近なところでの人間関係の問題が浮き彫りになりました。犯罪や非行にいたった少年など、共通していることは、身近なところでの人間関係がうまくいっていないという背景があります。このことは、いわゆる「普通の子ども」にも共通する基本的な課題として受けとめ、対処しなければならぬ問題だと思えます。

中学生から次のような意見が出され、親子関係の難しさが訴えられました。「文句を言われたら、むかつく」「普段は言わないのに、テストの前になるとブツブツ言われる」「同じことを何度も言われる」「こちらから頼んでないのに余計なことをされる」「怒られるのはしかたないけど、それを引きずってブツブツ言われる」「他人

が分かってくれるのに、親の方が自分の子どものことを分かってくれない」など。人間関係の希薄化が進むなか、子どもたちの大人との関係が少なくなってきました。現代社会は中学生や高校生の生活と大人社会との関係が分離、断絶の状態になっていると言えます。子どもたちが、このあり様のもとに置かれ、大人へと成長していくことが人間形成に影響し、非行問題やいじめ、不登校、また、閉じこもりや引きこもり、そしてニートやパラサイトと呼ばれる状態の背景になつていて考えられるのです。

幼少期から豊かな社会関係を コミュニケーションや関係の基本は、幼少期からの親子関係や身近な大人との関係によつて築かれていきます。子ども同士の関係が濃くうまくいっておれば、それによって安心できるのはありません。大切なのはいろいろな大人との関係(出会い、つな

り)が豊かであることです。そこで、いろんな肥やしをもちたい社会関係を広げ、社会性と社会力を育てていきます。今日、このことが弱体化していることに最大の問題点が潜んでいると考えられます。育児や教育にとつて、最も重要なことは「人間性をつかさどる知能」を伸ばすことにあります。

社会に生き、社会に役立つ一人前の人物に育つためには、幼少期からこの人間性をつかさどる知能を伸ばしてやる環境や教育がぜひとも必要です。これは放っておけば育つというものではありません。いくら学校の勉強ができて、社会性や人格が未熟な大人になり、やがて社会から脱落したりニートになつてしまったりすることもあつてはなりません。最も重要なのは、幼少期の社会関係です。子どもを社会から隔離して人貧乏にしてはなりません。子どもが育つには町中の大人が必要で、ハートブリッジ「地域のおじさん・おばさん運動」に理解と参加をいただき、子どもたちを地域みんなの仲間と考え、つなかりを大切にしていってほしいのです。

